

地域密着型サービスの自己評価票(さくらグループ)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・法人の理念に沿い、グループホーム独自の理念を作り、玄関と各グループに掛けている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・介護職員会議や申し送りで話し合い、その人らしく生活が出来る様取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・家族会等で、話をしたり見学者や地域の方にはパンフレットを配布し運営推進会議でも検討している。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・隣近所に人家はないが、民生員の方達への声かけを行っている。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・地域の夏祭りに利用者も参加され、職員の踊りを披露している。 ・園の行事にも民生委員の方に参加頂いている。 ・後見人制度の勉強会を自治会を含め行なった。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	・家族・地域の方を交え、成年後見人制度の勉強会を行った。 ・中学校に車椅子の操作等の勉強会は出来る事等の話はしている。	○	・小、中学校との交流を深めていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	・介護職員会議、運営推進会議等で改善策を検討し、改善に取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・毎月の事業報告、外部評価の報告を行ない、意見を頂いたり改善策等、検討して頂いている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	・園の行事に参加して頂いたり、防災時の協力等頂いている。 ・介護相談員の意見を参考にし、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・玄関にパンフレットを置いている。 ・家族、地域の方、職員を対象に勉強会を行なった。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・研修参加や復命書も全職員に回覧している。 ・入浴時には身体チェックを行ない、打撲痕等ある場合は申し送り等で原因を追究する事で、防止につながっている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入退時には、事前に十分説明を行ない同意を得る。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・利用者の会議（さくら会）等で困っている事等を聞いたり、表情や行動から汲み取れる様心掛けしている。 ・介護相談員から、利用者の意見を聞ける様にしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・家族会便りを毎月発行し、日常の様子や健康状態を報告し、金銭管理についてもコピーを送付し面会時にも見て頂いている。また、面会時や必要時には電話にて報告を行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・玄関に意見箱を設置したり、家族総会時やカンファレンス面会時にお聞きしている。 ・介護相談員の受入れ	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・職員会議、介護職員会議、職員調書などで意見を述べる機会がある。 ・年度末に反省を行ない次年度につなげている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	・利用者の状態、行事等に合わせローテーションを組んでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	・定期異動は行なっていない。 ・退職者の補充をした場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・段階に応じた研修があり復命書により全職員への周知を図っている。 ・資格取得の推奨も行なっている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・GH連絡協議会や地域包括支援センター主催の勉強会等に参加し、情報交換を行なっている。 ・近隣の特養利用者との交流を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・互助会等でミニバレー大会、ボーリング、忘年会、ビアガーデン、旅行等を行ない、親睦を図っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・自己研鑽の呼びかけをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・傾聴する姿勢を持ち、話しやすい環境を作り、ゆっくり聴く様にしている。 ・日々の中で信頼関係が構築できる様努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・見学や申し込み時には、困っている事や不安な事等十分に聞き、説明をしている。 ・信頼関係を築き、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・状況を伺い、他のサービスも勧めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・ディサービス等を利用しながら、施設の雰囲気に慣れて頂いたり、入所後も家族と相談し、出来るだけ多くの面会や出来る範囲で外泊をお願いし、徐々に馴染めるよう努めている。		
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・出来る事をして頂きながらご本人から、教えて頂いたり共同作業を通し、支えあう関係を築いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・行事への参加を呼びかけたり、出来る範囲での面会等お願いし、一緒に楽しんで頂ける様努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・家族との情報交換を蜜にし、より良い関係が築ける様努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・面会時にゆっくり過ごせる環境を整え、一緒にお茶を飲んで頂いたり、お墓参りや訪問、電話や手紙での交流を図って頂いている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・洗濯物たたみやゴミ捨て等、職員が間に入りながら共同作業を通し、関わり合いを持たれている。 ・相性を見ながら散歩や外食等もして頂いている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・退所後も面会等行なっている。 ・必要であれば療養型サービス等他のサービスの紹介も行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ケアプラン作成時に本人、家族の希望を聞いている。 ・カンファレンスにも出来るだけ本人、家族にも参加して頂き、意向の把握に努めている。 ・困難な場合は、家族より情報を頂き、本人の立場に立って、利用者本位のケアに努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・アセスメント時、分かる範囲では聞いているが、若い頃の生活等分からない事も多い。 ・日頃の会話の中から、本人、家族より情報を頂いている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・生活歴を踏まえ、24時間シートを活用しながら、日常の生活の中から観察し、把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	・本人、家族の希望を大切にしながらカンファレンスでは、他部署の職員も参加し、意見を出し合いながら、介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	・3ヶ月に1度モニタリングを行ない見直しを行っている。 ・毎月の介護職員会議にて個々の利用者のプラン実施状況の検討を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・24時間シートを活用し、毎月プランに添ったまとめを行ない、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	・居宅支援を通じ、ディ、ショートを利用経過後入所に至っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・運営推進会議や台風時等には消防署、警察、民生委員の協力を頂いている。 ・保育園との交流や高校生のV rの受入れをしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・病院、他事業所のCMとの話し合いをしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・運営推進会議のメンバーとして、意見交換、情報交換を行ったり、勉強会の講師依頼等協働している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所前の医療機関を継続しているが、家族の希望で同町の協力医に変更される場合もある。また専門医も家族と相談しながら受診している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・利用者の状態をみながら専門医の受診をしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・1日2回バイタルチェックを行ない状態変化時は看護師に報告している。 ・必要時には協力医に相談している。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・Dr、家族と情報交換を行ないながら早期退院出来る様努めている。 ・定期的な状況確認を行なっている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・本人や家族の意向に従い、終末期ケアについて家族、Drと話をしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・家族と相談し行なっている。	○	・主治医の協力が必要

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	・家族、CM、担当者と情報提供に努め、利用者 の不安感の軽減に努めている。 ・退所時サマリーの作成		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	・排泄、入浴時カーテンをする等の対応は出来て いるが、トイレ誘導時の声かけが不十分である と思う。 ・記録時の取り扱いには個人情報情報を漏らさない 様、十分注意している。	○	・相手の立場に立ち、声かけを行なう。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	・さくら会で希望を聞いたり買い物時には好みの 物を選んで頂く等、出来るだけ自己決定の支援に 努めている。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	・生花クラブ、体操等日課は決めてあるが、本人 の気持ちを大切にしている。 ・さくら会等で本人のしたい事、希望を聞き出来 る範囲で実施している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	・理容、美容は本人の希望される店に行かれてい る。 ・スカーフやブローチをされたり、利用者の状態 に合わせて行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・皮むきや野菜切り等をして頂いたり、職員も一緒に会話をしながら食事をしている。 ・お盆拭き、テーブル拭き等して下さっている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・現在はお酒、たばこを吸われる利用者はおられないが。希望があれば提供出来る。 ・おやつ、飲み物は好みの物を提供している。また、外食等も行なっている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・夜間はオムツ着用でも、日中は紙パンツでトイレ誘導を行ったり、食前、食後に声かけ、誘導を行なう等、一人ひとりにあった対応をしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・基本的には週3回となっているが、タイミングに合わせる事でもある。特に夏場は毎日入浴の利用者もおられ希望に合わせている。 ・時にはディサービスの大浴場で入浴を楽しめる事もある。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	・昼間は出来るだけ起きて頂いたり、声かけや活動を行ない、夜間は良く眠れる様支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	・ご本人に出来る事をして頂き、また職員と一緒にこなす事で、出来る事の幅を広げ、賞賛の言葉をより多くかける様努めている。	○	・特にドライブ、外出等は喜ばれているが、男性利用者の日常の楽しみが少ない為、今後検討していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・金銭管理は職員がしているが、園にパン屋さんが来られ、好きなパンを選んで頂き支払いもして頂く。 ・買い物に行った際に、レジでお金を渡し支払いをしてもらっている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	・日曜日は食材、おやつのお買い物、日常の中でも外出、散歩、お墓参り等また職員の事務処理での外出時と一緒に外出する等、自由に外出出来る様に支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	・さくら会で行きたい所を話合ってもらったり、家族、利用者、職員で遠足等も実施している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・プランに上げたり随時、希望があれば電話や手紙を書いて頂いている。 ・お礼の電話や手紙の支援を行なっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・ゆっくり会話が出来る様、居室でお茶等を提供している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・拘束はしないという方針でケアをさせて頂いている。		・言葉の拘束もない様、心掛ける。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・玄関、居室等鍵はしていない。自由に入出入りされている。 ・外に出られる時には、さりげなく職員が付き添う。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員間で声かけをしながら所在確認を行なっている。 ・夜間は見守りしやすい位置にテーブルやイスを移動し見守る。また、巡回をこまめに行なっている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・状況を見ながら検討し、個人で保管されている物もある。（爪切り、ハサミ、石鹸、歯磨き粉等）		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・毎月1回の防災訓練、服薬介助は2人で確認している。 ・インシデントリポートを作成したり、介護職員会議で勉強会を行なっている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・介護職員会議の中で、3ヶ月に1回医務研修を行なっている。（緊急時の対応等）		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・毎月防災訓練を行なっている。 ・台風時等、地域の消防署、警察、民生委員の方に協力を頂いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・カンファレンス時、情報提供すると共にリスクの可能性をあげプランに上げている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・午前、午後のバイタルチェックを実施しながら、状態観察を行ない、早期発見に努めている。異変時には家族に連絡し、受診を行なっている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の変更等、申し送り簿を活用し、用法、用量等の確認をしている。服薬時は2人で名前の確認を行ない誤薬のない様支援している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・ファイバードリンクや出来るだけ水分を多く摂取して頂き、腹部マッサージ等行なっている。 ・出来るだけ歩いて頂いたり、体操等一緒に行なっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後出来る範囲で口腔ケアをして頂き、不足な部分は職員が行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・管理栄養士が立てたメニューを元に調理し、栄養バランスを考えている。 ・水分、食事の摂取量はチェック表を活用し把握している。 ・入らない場合は、補助食品、水分もOS-1等、食べられる物、飲める物を提供している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・マニュアルが作成してあり、予防に努めている。 ・職員会議、介護職員会議等で研修を行なっている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・衛生管理に努め、手洗い、消毒の徹底 ・調理器具の消毒 ・食材は保管に注意し、先入先出を行ない食中毒予防に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・玄関周りに花を飾ったり、メダカを飼育し、家庭的な雰囲気作りを工夫している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・昔の鏡台やミシン棚、また利用者の作品等を飾り、生活感や季節感が味わえる様工夫している。 ・音や明かりも利用者に合わせている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・居間やソファで自由に過ごして頂いている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・自宅で使われていたタンス等持って来られた利用者もあるが、入所後本人、家族と相談しながら安全な物、使いやすい物を工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・朝の離床時や掃除の時に、窓を開け換気を行っている。 ・温度調節は職員ではなく、利用者に合わせた温度で設定している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・必要な場所には手すりをつけたりしている。 ・バリアフリーになっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・話す時は、分かり易い言葉やジェスチャーでゆっくり話し、理解して頂く様努めている。 ・トイレの表示をしたり、道案内のテープを貼り工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・家族と一緒にバーベキュー会を行ったり、お茶を飲んだり楽しんで頂いている。 ・散歩や洗濯物干し等されている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

※ V r に来て頂くだけではなく、利用者も社会参加出来るように取り組んでいる。

- ・ お手玉を作り、保育園に寄贈
- ・ 雑巾を縫い、家族、見学者に配布
- ・ 人形のしおりを作り、来園者に配布

※ 利用者の会議（さくら会）で意見を出して頂き、ケアに活かしている。

※ 隣接のディサービス利用者との交流、希望時には、ディサービスの大浴場での入浴を楽しまれている。